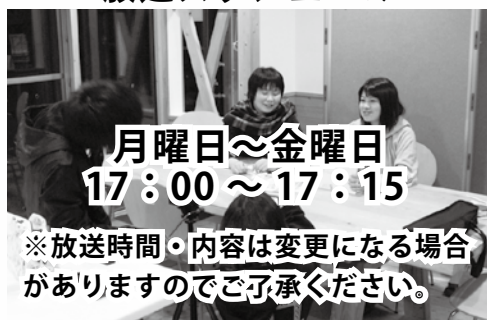
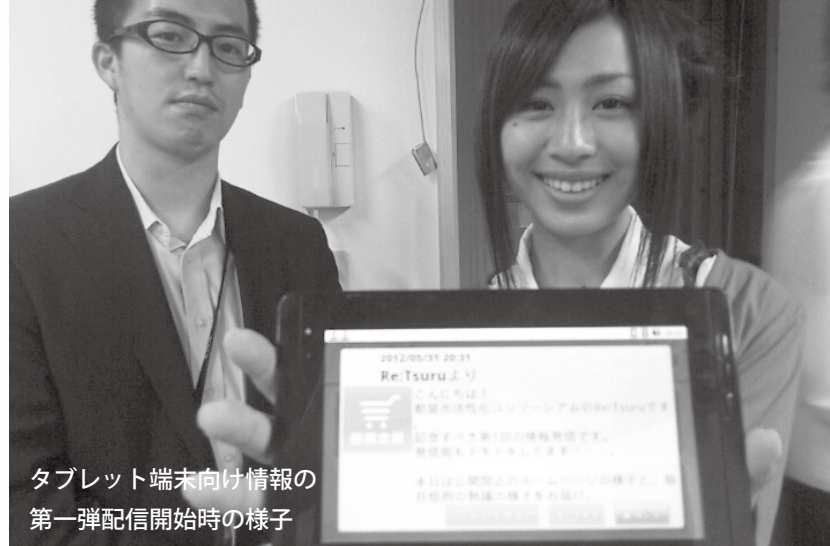


放送スケジュール



月曜日～金曜日
17:00～17:15

※放送時間・内容は変更になる場合がありますのでご了承ください。



タブレット端末向け情報の第一弾配信開始時の様子

LINK

(CATVで放送する、都留市の教育番組制作・情報発信プロジェクト)

LINKの活動履歴

- 2012年
- 【3月】第1回熟議開催
街や地域、団体の活動等に対する「情報配信(表現方法含む)」に対する課題が共有される
 - 【5月】Re:Tsuru Web サイト作成
協働：シナプテック株式会社
 - 【5月初旬～順次】タブレット端末を活用した情報配信トライアル開始
協働：NTT 東日本-山梨
 - 【7月】情報配信のトライアル終了
一定の閲覧率を維持、住民の情報享受による一定の効果を得る
 - 【10月】産業祭りにおいて「LINK」活動をパネル展示
 - 【11月】「全国生涯学習ネットワークフォーラム2012」@宮城教育大学において「LINK」活動をパネル展示
- 2013年
- 【3月】市内CATVにて番組放送開始!

リンクの活動は今取り上げる3つのプロジェクト以外にも今後新たなプロジェクトが創出されることも見込めますが、LINKプロジェクト内も今後変化していくよう、目が離せません。皆さんもまずは番組をご覧になってはいかがでしょうか。

中心になる学生らは、「番組を見て楽しんでもらい、CATVで放送している情報を見て、市のイベントに参加してもらいたい。将来的に学生と市民との交流のきっかけになってほしい。」といった意見や、「CATVの方々とお話をさせてもらった時、連携を快諾してくれ、他メンバーも楽しみながら携わってくれ、たくさんの方々の協力で実現できることが嬉しく、励みになる。」、「今後も放送の反応や反省をふまえながら、より楽しめる番組を作っていきたい。」と話していました。

都留文科大学の学生ならではの番組作り
番組は、都留市の人口の約1割を占める学生と、市民との接点作りになることを意識しながらの制作になりました

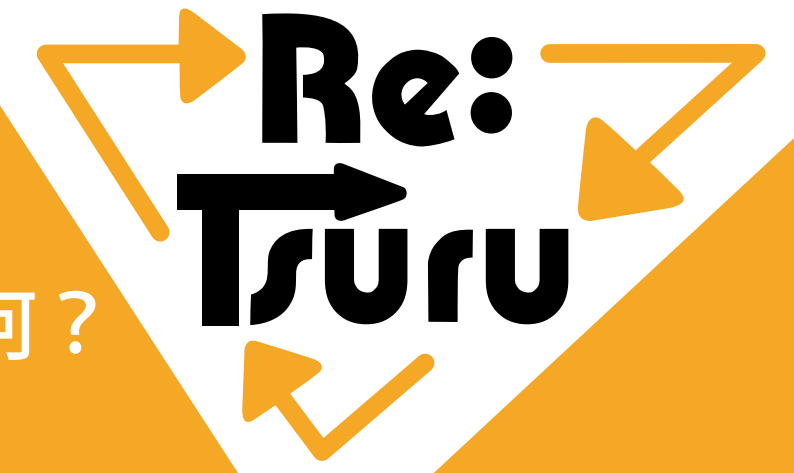
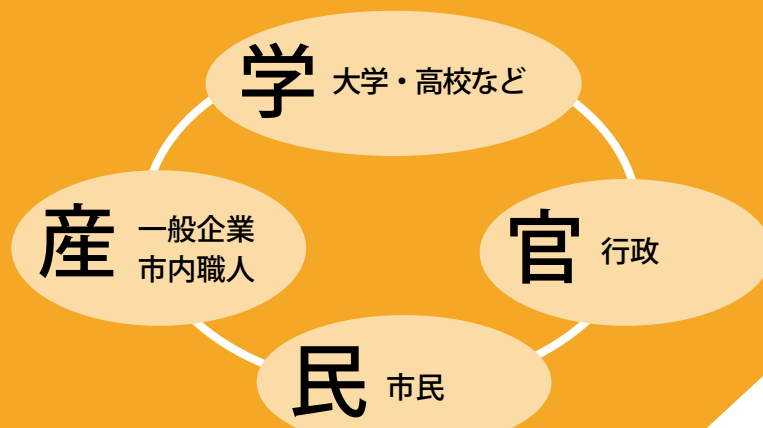
情報発信プロジェクト始動
熟議を進める中で、地域における各種情報発信・入手についての課題や、その解決に対する期待が大きくなっていました。そこで、NTT東日本-山梨との協働で、タブレット端末向けの情報配信を実験的に行うことや、リンクのホームページを制作することになりました。その後、熟議の中で出た、「そのイベント、知ってたら参加したのに」という意見から、情報発信で地域をほとんどカバーする、CATVとの連携もアイデアとしてあがり、番組の製作が決定しました。(左:LINKの活動履歴参照)

あなたがつなぐ、
あなたがつなぐ。

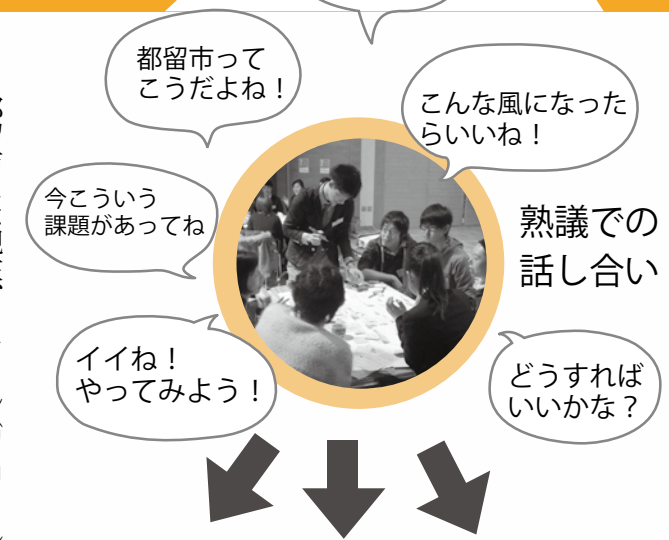
学ぶ楽しさを伝えたい
内容は小学校レベルのわかりやすい教育番組を企画し、学生が先生となり、国語や算数、英語などの教科から番組作りをしています。1教科につき10分程度の番組にしてシリーズ化し、市民の皆さんに興味を持ってもらおうと、取り上げる題材や演出も工夫しています。例えば「動物の動きをまねたストレッチを教える」、「英語でお料理教室(表紙写真参考)」などの多彩なアイデアがでてきます。ビデオカメラなどの機材はメンバーが持ち寄り、全て手作りで仕上げていますので、作りの熱意や緊張感が伝わってきます。メンバー達は今後は撮影技術や編集技術も身につけてイメージ通り表現できるようにしていきたいと意気込んでいます。

都留市活性化コンソーシアム
リツール(Re:Tsuru)の活動を集めます。

リツールって? “協働”って何?



ホームページ
<http://re-tsuru.com/index.html>



リツールとは? 協働とは?
現在、様々な意味でつかわれる「協働」という言葉ですが、これは地域の課題解決に向けて、行政単独、または市民だけで取り組むのではなく、相互に相互の不足を補い合い、ともに協力して課題解決に向けた取り組みをすることを言います。

- プロジェクト① **リンク LINK**
CATVで教育番組放送、情報配信プロジェクト
- プロジェクト② **しーてっくす C-TeX**
アパレルブランド「Re:Tsuru」プロジェクト
- プロジェクト③ **ころーじゅ COLLAGE**
うぐいすホール野外ステージ再生プロジェクト



いま、協働がアツい!

C-Text

（甲斐絹のアパレルブランド **Re:Tsuru** プロジェクト）



郡内縞——谷村は一大有名産地だった

郡内地域は江戸時代から、郡内縞という絹織物の有名な産地であり、大変栄えた地域でした。昭和の頃までは、街角に立てば機械織りの音が聞こえてくるなど、盛んに生産されていました。

しかし、現在は機械化や海外製品の波におされ、市内でも生産量が少なくなっているのが現状です。

それでも、現在も様々な商品に都留市産の織物が使われているのですが、昔ほど盛んに販売され、認知されているわけではありません。そこで、オリジナルで商品を開発し、直接百貨店で販売する方法を模索することになりました。



撮影場所：
有限会社リード

市内の職人さんの声① 谷内正義さん

私はコンピューターを26年前に投入し機械織りに活用しています。当時は郡内でも初めて入れたのではないのでしょうか。最近では問屋を通しての商品販売は利益が薄くボランティアのような状態のことも出てきたため、ここ1、2年は自分でこのコンピューターを利用して商品を製作し、販売することも始めました。

大学と協働で織物の研究をしたり、服飾の専門学校のアシスタントなどに布を提供するなど協働もするようになりましたが、自分で作るとなると、どういふものが好まれるか難しく、試行錯誤していました。そんな時にリッセルから声をかけられ、少しずつ参加しています。山交百貨店での販売の記事が新聞に掲載された際は、富士吉田市の観光業者から連絡があり、谷村パーキングエリアでの郡内織物の展示販売が決まりました。反響がありびっくりしています。

今後は、インターネットでオーダーメイドネクタイの販売をリッセルを通してやろうと話しています。谷村工業高校の生徒さんの考えたデザインなどで、ハンカチを作る企画もあると聞いています。学生さんたちにも、知りたいと思うことがあれば教えたいと思いますし、楽しみにしています。

ブランドの立ち上げと新商品制作の秘話

肌触りが柔らかく美しい甲斐絹の光沢を活かし、高級感がある商品を開発しよう、ということと、ストーリーを制作することになり、メンバーの一人がオリジナルのデザインを考えることになりました。何度も試行錯誤の末、郡内縞からのイメージでストライプに四角を配置した幾何学模様のデザインが生まれました。織り方は甲斐絹の「ほぐし織」という技法で、色柄の柔らかさや温かみ、奥行きを深さを表現できることが特徴です（上写真参照）。

そして昨年の11月3日、4日と山交百貨店（甲府駅前）の一階にて特設で販売することができました。小数量限定で販売したところ即日完売となり、予約注文となる盛況でした。その際には、ほぐし織のバッグや傘、甲斐絹のネクタイも販売しましたが、立ち止まって見てくれるお客様たちに少しでも都留市のことや、甲斐絹のことを知ってもらえるように、メンバーも丁寧に商品の説明をしていました。このストーリーは現在も常設で販売しています。

何が他と違うのか

産地と百貨店とが直接取引することで、消費者のニーズを早く知り対応することができるというメリットがあります。職人と販売店の間にいる中間業者を bypass して卸値を上げることによって職人に入る利益を増やすという都留市の新しいビジネスモデルを構築することができました。

また、従来の行政からの補助金といった産業振興ではなく、協働での人的財産（人・知的財産技術やデザイン・情報などを提供しあって形作られた新しい産業振興を展開することができました。今後も新しい産業モデルを試すことができるように今後も期待しており、産地へのツーリズム（観光）や、インターネット販売なども案が挙がっています。

- ①山交百貨店販売時のディスプレイ
- ②エコハウスでの商品開発会議
- ③織り機見学の風景



ほぐし織

仮糸を取り除くことを解す（ほぐす）ということから名づけられました。白地反物を仮織し、縦糸にハンコのように捺染（着色）し、仮糸を抜きながら布として織っていきます。絵柄がまるで水彩画のように柔らかで、深い風合いが出るのが特徴です。

ほぐし織を作っている職人は現在日本に二人しかいないそうで、今回の商品を織った職人の天野さんは、そのうちの一人です。



市内の職人さんの声② 天野昭一さん

リッセルには学生さんがたくさん参加していますが、参加しているみんなに楽しんでほしいと思っています。全国から来る文大生たちには、「都留市っていいな」と思ってもらいたいです。私はうぐいすホール横の広場の整備（※次ページで取り上げています）にも参加しているのですが、学生たちが一生懸命に作業している姿を見ると、私も「年上だから「忙しい」とは言ってもらえない」と思いました。一緒に作業する、泥だらけになる、汗を流す。一緒にやっていると呼び名も変わってくるし、他人ではないような感覚になります。そうやって輪が広がるのが私にとって財産になっています。

今回新しい商品（右ページのストーリー）を協働で作りました。採算を考えてやったわけではありませんが、こうした新しい出会いの機会が次のステップへと繋がります。さらに発展していくことに期待しました。様々な世代の人と交流する中で、今までの情報に縛られることなく世界が広がっていくのは楽しいですし、なにより若い人が育ってくれることで、活力のある産地になってくれればいいなと思います。



撮影場所：
天野商店ほぐし織工房



撮影場所：
山交百貨店（甲府駅前）1階フロア
2012年11月3日（土）・4日（日）

都留発のアパレルブランド誕生!!

コ ラ ー ジ ュ COLLAGE

(うぐいすホール野外ステージの再生プロジェクト)



うぐいすホール野外ステージの再生へ

皆さんはうぐいすホールにある屋外ステージをご存知でしょうか。目にしたことはあるのに、ステージだと気づかないという人がいるほどに草木が覆っていた場所を、今、リツールのメンバー達が再生しようとしています。

ステージの裏にある森にも手を入れることで使いやすくし、新しい多目的ステージに整備し直すことで、市民の表現の場所として活用されるようにすることが目標です。

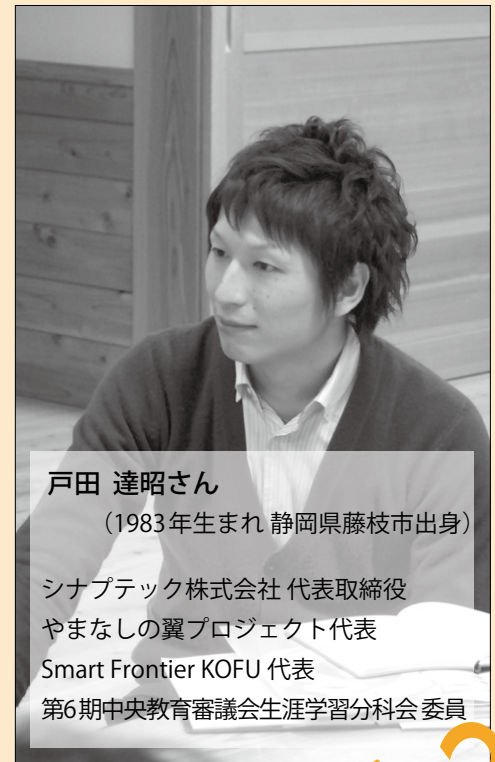
広がる輪

整備には、市民や学生らが参加し、協力しながら進めています。素人ばかりなのに、できないこと・わからないこと・足りないものがたくさん出てきました。しかし炊き出し、手伝い等でもそれぞれができる形で参加しています。今後、谷村工業高校の生徒達とも協働し、進めていく予定です。始めは手探りだったものが、高校生からこの年配の方まで輪が広がり、多くの人の協力によって形になるようになっていきます。

誰のための再生か、今後の使用への課題

都留市の国民文化祭事業の中の一つ、都留市全国ふれあい俳句大会には全国からお客様が来ることが見込まれます。その際にお弁当を食べたり、句を詠むことができようなおもてなしの場所としても提供できるように作業をしています。

俳句大会が開催されるのは5月25日(土)です。リツールのメンバーはぜひ皆さんのお力をお借りし、完成へと近づけたいと考えています。



戸田 達昭さん

(1983年生まれ 静岡県藤枝市出身)

シナプテック株式会社 代表取締役
やまなしの翼プロジェクト代表
Smart Frontier KOFU 代表
第6期中央教育審議会生涯学習分科会 委員

山梨県内では甲府市や北杜市をフィールドに、幅広く協働のまちづくりに関わり、その活動を手がけられ、そして何より勢力的に都留市を応援してくださる戸田達昭さんにお話を伺いました。

「リツールを通して感じた、他市と都留市のまちづくりの違いにどんな印象をもたれましたか？」

都留市さんは市民活動も活発で、多様なテーマに対しての協働がなされていますので気運も高く、産学官民による協働体制を構築しやすい土壌だと感じています。

また、都留文科大学の学生がおよそ10%を占める人口構成もユニークで、若者の地域参画の観点からも、他の地域と比べて潜在能力が高いと感じています。

「企業・学生・行政・市民が協働することがなぜ大切だと感じているのですか？」

これからの『新しい公共型のまちづくり』は、多様な担い手による『熟議』と『協働』による『創造』が鍵になると思っています。

それぞれ異なる視点や立場、年齢層が集って熟議し、明確化された課題に対してそれぞれの立場を理解しあい・活かして

あい協働することで、地域に対して新たなイノベーション(革新)も起きるでしょう。これが『これからの』という意味で大切だと思っています。

「今後展開してみたいこと、理想などをお聞かせください。」

個人的には都留市をテーマに『自立した地域の本質』への挑戦と、他地域連携・協働により生まれる新しい価値づくりに取り組んでいきたいと思っています。

ただ、まだまだ都留市に対して勉強不足ですので、協働の中で学ばせていただきつつ、仲間探しをさせていただきたいと思っています。そしてなにより、市民の皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

リツールの活動は市民の皆さんにとって身近で背伸びをせずに参加できる、協働の取り組みだと感じます。これらのプロジェクト以外にも、飲食業の活性化に向けた取り組みなども始まっています。皆さんも熟議に参加して、都留市について語ってみてはいかがでしょうか。

次は何する？